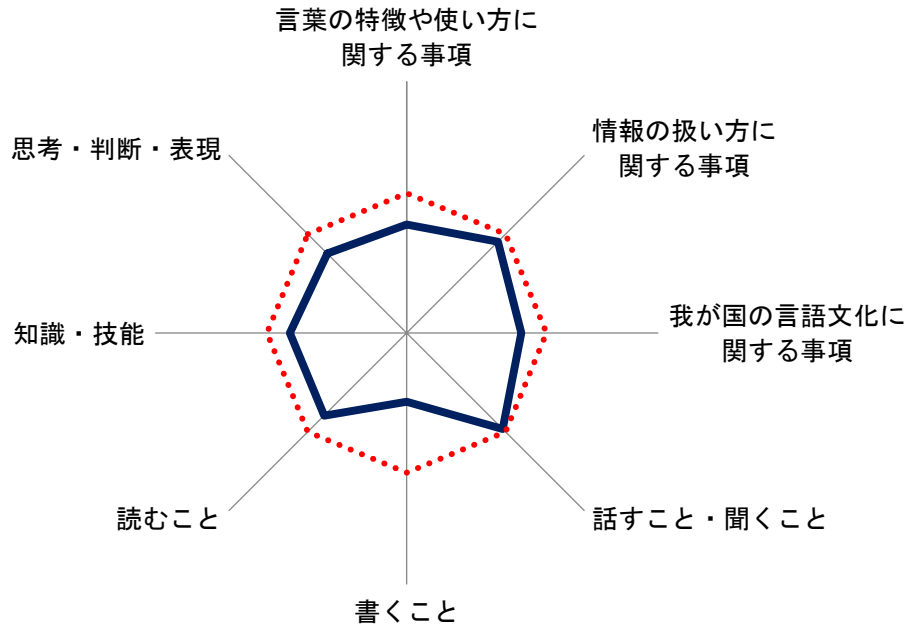


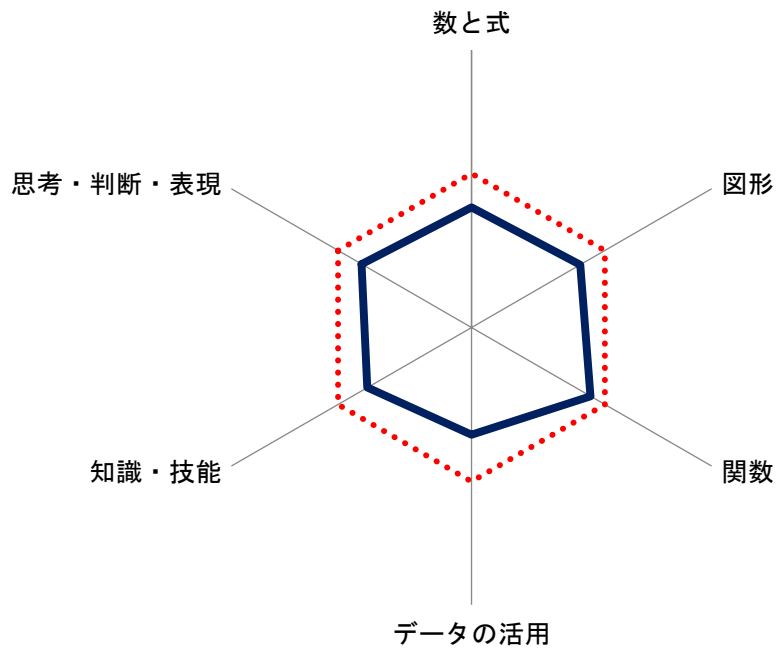
○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【国語】

— 今治東
..... 全国平均



【数学】

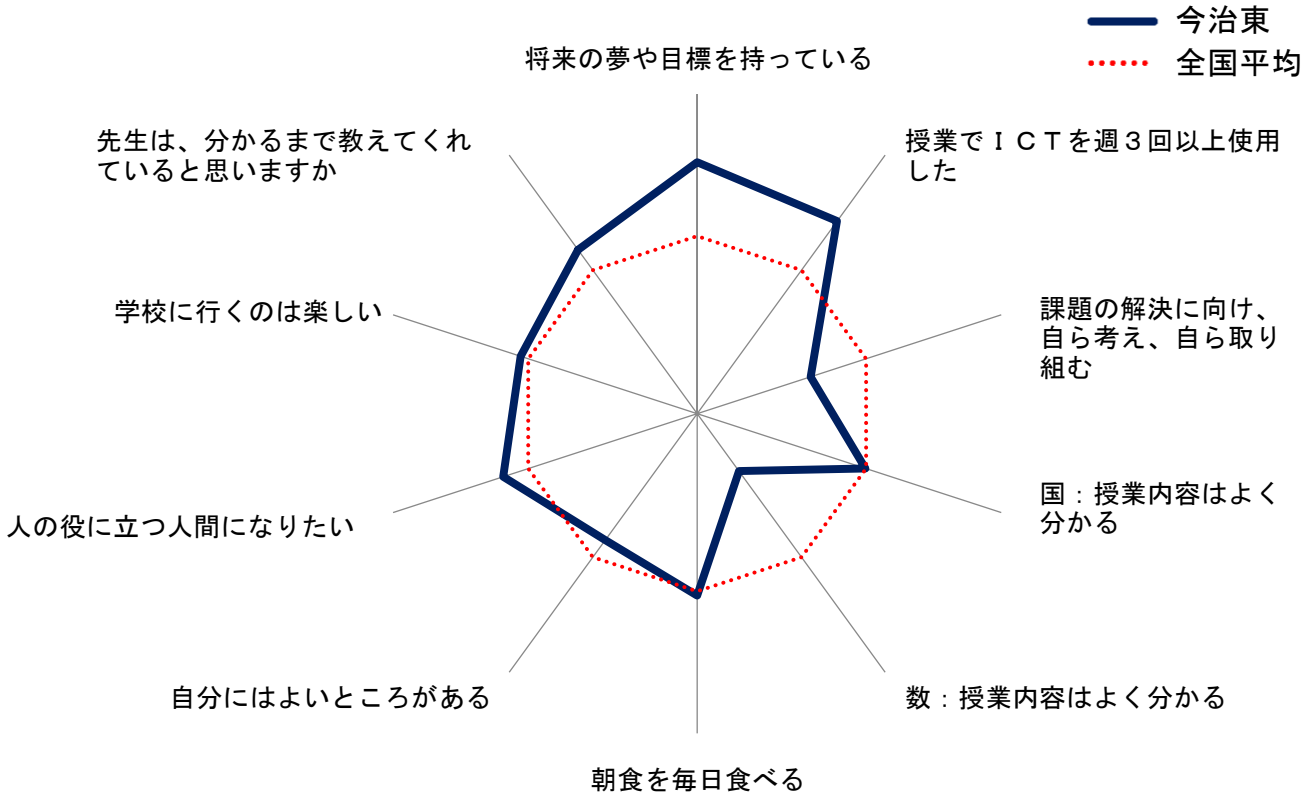


中学校

令和6年度 全国学力・学習状況調査
(学習や生活の状況) 結果

今治東中等教育学校

○ 生徒質問調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

【国語】

国語に関する知識・技能のうち、情報の扱い方に関する知識及び技能について問う問題で正答率が高く、「具体と抽象」など本文中の情報と情報との関係を適切に捉えることができていた。また、行書の特徴の理解を確認する問題についても正答率が高かった。次に、思考・判断・表現のうち、物語の構成の意図を理解する問題でも正答率が高く、目的や意図を踏まえて伝えたいことを明確にできていた。一方、知識・技能のうち、話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題や、思考・判断・表現のうち、本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する問題、本文に書かれていることを要約する問題、表現を工夫して物語の最後の場面を書きその効果を説明する問題に課題が見られた。

記述での解答を求める問題の正答率に課題が見られることもあり、文章を読んで要約したり、自分の考えを伝えるための文章表現を工夫したりするなど、「読むこと」「書くこと」に関する学習の充実を図り、思考力・判断力・表現力等の向上に努めたい。

【数学】

「数と式」「関数」「データの活用」の領域の知識・技能に関する基礎的・基本的な問題については、比較的に入答率が高い傾向がうかがえた。特に、「数と式」の領域のうち、考察すべき対象を的確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をする問題の正答率が最も高く、約89%であった。また、「データの分析」の領域の最頻値に関する問題や「関数」の領域のグラフから事象を解釈する問題でも比較的に入答率が高く、基本的な知識・技能の定着が見られた。一方、思考・判断・表現に関する問題では、4領域とも正答率が低い結果となった。特に、記述での解答を求める問題においては無回答率も高い状態で、今後は生徒の習熟度に合わせた授業内容と課題の分量を更に検討し、生徒個々の理解度に応じたきめ細かい指導を継続していきたい。

【学習や生活の状況】

総合的な学習の時間への取組、話合いの場としての学級活動や道徳の領域では全国平均を上回っており、学校生活の充実、学校の有意性に結び付いている。また、総合的な学習の時間の取組から、地域や社会をよくしたいという意思も強く現れている。3・4年生が課題別に協働活動している総合的な学習(探究)の時間のより一層の充実を図っていくことで、地域社会の問題解決に主体的に取り組む姿勢や自己有用感の向上を図っていききたい。また、授業におけるICTの活用についての領域でも全国平均を上回っている。電子黒板の使用等、ICTの活用方法を工夫することでより一層分かる授業に結び付けたい。一方、「課題解決に向け、自ら考え、自ら取り組む」の領域では全国平均を下回っている。将来の夢や目標を持っている生徒が多いことから、その実現に向け、教師が個に寄り添う指導に努めていきたい。